

# 新刊のご案内

グローバル化が進む中、日本の電力・エネルギーの将来、  
大学教育 特に工学系教育の改革にご関心のある方々必見の書

関根泰次 著 随想102話 発行:EME研究会 単行本 四六判 254ページ

## 『学窓から眺めた日本と世界 そして電気』 第2集

定価 1,500円(税込み)+別途送料180円



電気新聞に各界論客によるシリーズ『時評ウエーブ』が設けられたのは1998年で、関根泰次東京大学名誉教授はコラム開設以来、今日まで中断なく寄稿を続けておられこの20年間に202編を寄稿されております。このうち第1話(1998年3月)から第101話(2007年3月)までの101編は合冊され、単行本として2007年6月に電気学会から出版されています。

今回の出版は、それ以降2018年5月までの10年間の第101話から第202話までの102編です。関根先生が電力系統工学や、その数理理論の世界的権威であることは、改めて申し上げる必要はないと思いますが、その筆致は80歳を超えられてますます円熟味が加わり、テーマも大学教育のあり方、日本の行くべき道、グローバリズムの問題点、人生論とその広がりなどがとどまることがありません。まさに、時代を代表する知識人ならではの社会時評と警鐘の言葉に満ちています。

日本は80年代のバブル崩壊後の“失われた時代”からなかなか脱却できない中、少子化・高齢化が、否応なしに進展しています。そして二酸化炭素削減を軸とする環境対策や、再生エネルギー源の拡大浸透は、エネルギー政策に長期的視野に基づく軌道修正を迫っています。このようなことを背景に、喫緊の課題としての“大学の低迷”、“技術者の物言えぬ社会”、“技術行

政の問題点”、“技術立国の再興”、“エネルギー・電力の将来”について、先生は豊かな経験をもとにした示唆に富む指針を我々に示しておられます。

今回の新刊は、大学工学教育のあり方、電機産業や電力産業の行方、エネルギー問題に関心の高い方々には是非ともご一読をお勧めいたします。また今後の技術日本を担っていかれる中堅・若手の技術者諸氏にもお読みいただきたいと思えます。

### ご購入のためのご案内

ご購入を希望される方は、メールアドレス(eme.denryoku.shakai@gmail.com)に、本書購入ご希望の旨を、ご住所、お電話番号、ご芳名とともにご連絡を賜りたく存じます。メール受領と同時に代金振込先をご連絡し、入金確認次第発送させていただきます。

※右QRコードでメールを送信できます



## 随想102話タイトル一覧

101	インドの世紀	152	ドイツと日本と
102	マンガ「戦争中毒」を読む(1)	153	明日への道標
103	マンガ「戦争中毒」を読む(2)	154	「戦争の記憶」を遺すこと
104	不可解な真実	155	「戦争の記憶」とは
105	平岩・宮沢氏と平和国家日本	156	政府の信用度
106	信用の連鎖	157	「しがらみ」と「きずな」と
107	ユダヤ人のカトリック大司教	158	労働者 K教授
108	アフリカに電気を	159	労働者 K教授(つづき)
109	忘れられたルーツ(その1)	160	那須翔氏と大学の今昔
110	忘れられたルーツ(その2)	161	大学改革と電力改革
111	文明開化の七つ道具	162	大学改革と電力改革(つづき)
112	ブータンへ(1) `なぜ、	163	そして日本のメディアは…
113	ブータンへ(2) `なぜ、いま、	164	ピケティの「大学論」
114	ブータンへ(3) `幸せの国、	165	入学式に想う大学の實力主義
115	風任せ?	166	産業競争力強化と大学
116	エネ教育とグランゼコール(1)	167	大学、研究・教育の産業化(その1)
117	エネ教育とグランゼコール(2)	168	大学、研究・教育の産業化(その2)
118	右と左 保守とリベラル	169	大学と産業界
119	未来の大国 いつまでも?	170	大学と産業界(つづき)
120	身近な南極	171	三等国への道(1) グローバル化
121	パワーアカデミーと壁	172	三等国への道(2) 危機回避
122	パワーアカデミー(PA)の1年	173	三等国への道(3) エリート
123	79年、89年、09年	174	CEOは誰か?
124	核廃絶と鳩山由紀夫工学博士	175	広島折鶴と栗津の晴嵐(1)
125	スマートグリッド考	176	広島折鶴と栗津の晴嵐(2)
126	金融資本主義時代の技術	177	「国」揺さぶるグローバル化(1)
127	大学は誰の為に?	178	「国」揺さぶるグローバル化(2)
128	憂鬱な日々	179	「国」揺さぶるグローバル化(3)
129	長期予測	180	州立大学MIT 私立東京大学
130	戦後65年の「林住期」	181	「ムダな研究」どう守る?
131	「QOD指数」と日本	182	脱EU、トランプ氏、天皇退位①
132	グローバル化と未来への投資	183	脱EU、トランプ氏、天皇退位②
133	長寿の祝い	184	脱EU、トランプ氏、天皇退位③
134	ハドソン川の奇跡	185	米国の喜劇? トランプ大統領
135	3月11日	186	もう一つの事実と真実①
136	非現実的な夢想家	187	もう一つの事実と真実②
137	現代に生きる万里の長城	188	ロンドン、テロとEU
138	現代に生きる万里の長城(つづき)	189	首都? オックスフォード
139	去り行く2011年	190	日本 恵まれた島国?
140	サルコジと福島第一	191	海外が見る皇室と天皇退位
141	3・11 ある独元特派員の予言	192	EUに学ぶ日本の将来
142	インテリジェント・グリッド	193	大学はどこへー① 明日の大学
143	ネットワーク考	194	大学はどこへー② 大学の劣化
144	東北の夏祭り	195	大学はどこへー③ 大学と国
145	木を見て…	196	大学はどこへー④ 協働と競争と
146	学問なき経験は…	197	禍福は天上、地中より…
147	一生の仕事(1)	198	明治150年、西洋国日本?
148	一生の仕事(2)	199	日はまた昇る?
149	サラリーマン 任期と保険	200	「日本という謎」を解く…
150	サラリーマン 専門性と組織	201	「日本の謎」とタテ社会①
151	15年間を振り返って	202	「日本の謎」とタテ社会②